

中村の安産祈禱相撲

【日 程】 8月23日

【場 所】 陽珠院

【関係者】 自治会長・副自治会長、相撲当番
中村と近隣の子どもが取組みに参加



詳しい作り方は
こちら

中村の安産祈禱相撲は、地蔵盆の8月23日に、延命地蔵を本尊とする陽珠院で行われています。

江戸時代に中村を支配していた藤堂藩が相撲を禁止したところ、難産で亡くなる妊婦が続き、奉納相撲を行うと安産が続いた言い伝えから、安産祈禱相撲として受け継がれています。土俵の屋根を支える四本の柱には紅白のさらしが巻かれ、御幣がつけられます。このさらしと御幣は安産のお守りとして出産を控えた女性に配られます。

取組みの前に、「紙相撲」と呼ばれる行事が行われます。相撲当番の中から男性2名が選ばれ、半紙をくわえてしゃべれない状態で土俵に上がります。お互いに組み合い、西、東の順に押し合い、最後に東方が西方を押し出します。

取組みでは勝ち抜き戦などが行われたあと、中村の小学校高学年の3役（小結、関脇、大関）による「三役相撲」がおこなれ、結びの一番で勝った大関には弓と御幣が授けられます。



紙相撲の様子



取り組みの様子

完成した祠にお参りをする地域の人々

*この内容は平成30年(2018)度の実施した映像記録事業での聞き取り調査や過去の調査資料をもとに作成しました。内容が変更になっている可能性もあります。

キーワード：伝統行事、風習、相撲、中村、陽珠院